養生片仔癀の研究内容：

＜実例報告＞

肝障害における養生片仔癀の効果について
～特にＣ型肝炎について～

第４３回　全国日本病院学会
平成１３年１０月２０日　　於）ラフレさいたま

原田雅義、矢内原昇、F. Marotta、由島一郎、清水秀之、細川勝正、辻美隆、原田圭明、謝心範
医療法人東明会　原田病院

[目的]

我が国において肝癌の死亡率は年々増加し、遂に全癌統計中、男子は3位、女子は4位と増加している。C型肝炎から肝癌の発生率は、B型肝炎の3倍といわれている。現在C型肝炎の特効薬はインターフェロンであるが、日本人はsero-type Ⅰ（70%）、sero-type Ⅱ（30%）、であり、70%を占めるⅠ型には効果が少ない。C型肝炎治療の最先端といわれている病院でもインターフェロン不適の症例に、強力ネオミノファーゲンＣ、ウルソ等をただ漫然と投与しているのが現状である。そこで我々は、『養生片仔癀』（漢方養生食品）について数年前より投与・検討した。

[対象・症例]

平成10年4月から平成13年6月までに扱った肝疾患195例につき【ウイルス性：180例（92%）、アルコール性：7例（4%）、脂肪肝：6例（3%）、自己免疫性2例（1%）】につき『養生片仔癀（田七、田七杜仲精、黄精、甘草）』を投与し、投与前・後の肝機能の経過につき測定観察を行った。

測定項目は、【①肝機生化学的検査、②一般血液、③ウイルス量（ＨＢＶ-ＤＮＡ、ＨＣＶ-ＲＮＡ）④4型コラーゲン、⑤ＣＴ，echo，etc.】また、年齢、男女別、養生片仔癀投与までの病歴年数、投与期間、１日の投与量、効果、副作用等の総計的観察を行った。

[結論]

195例の各種肝疾患者のほとんど全例に著明なＧＰＴ値の正常化が10～14日間で認められた。

今後の検討課題として、【①副作用の有無、②特にC型に対し、インターフェロン投与前後の併用、③生検の症例の検討】が挙げられる。